

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288-9		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和6年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安らぎを与える私の我が家」の理念を常に抱き、「入所者各々のペースに合わせた生活を過ごして戴く」事を最優先に考えて日々の介護業務に取り組んでおります。

ここ3年以上続く新型コロナウイルス感染症下に於いても、「入所者が季節・時節を感じて戴けるよう」努力しております。例えば春・秋のお彼岸おはぎ作りやご近所の花菖蒲見学、施設内の夏祭り開催等です。

更に入所者の健康面で異常が発生した際は、隣接する母体医療機関と迅速に連携して対応が出来る点もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年の5月に開設したホームは「安らぎを与える私の我が家」の理念のもと、入居者は豊かな天草の海を眺めながらゆったりとした毎日を過ごされている。隣接する母体医院やデイケアとの連携など法人の機能が入居者の日々の健康を支えており、本人や家族、職員にとっても安心につながっている。開設時から継続されている職員による調理は、地元の鮮魚店をはじめ地産地消を取り入れた献立が作成されており変わらぬ支援が期待される。今回の外部評価に初めて臨む管理者は“出来ていること、できていない事、今後の課題”等を真摯に振り返りながら自己評価に取り組んでいる。コロナ感染症が5類に移行したものの、高齢者を支える施設であり緊張感をもってケアにあたる日々は続いているが、地域資源を活用した外出支援や季節に応じたホーム内活動も少しずつ再開できており、新年度は更に入居者にとって有意義な日々が提供されていくことと期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「安らぎを与える私の我が家」を「常に持って日々の業務を勤めている」と思われるが、管理者が描く理想の「利用者の笑顔溢れる施設」にはまだ不足している。	開設時から「安らぎを与える私の我が家」を理念として、ホームが入居者にとって安心できる我が家のような存在になっているかを念頭に置き、そのために何をするかを含めて日々職員の目指すところとしている。月のミーティングではケアについて話し合い、管理者は夜勤専従者や法人異動によりホーム職員としてスタートする方へ夜勤帯にも必ず入居者への声掛けを忘れないようにするように導いている。	本年度はコロナ感染症の発症などにより、入居者や家族、職員にとって困難な年であったと想像される。理念については具体的な年目標や月目標などを設定することで職員がより取組やすいものになると思われる。検討願いたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動参加や、施設のすぐ近くにあるお地蔵様のお祭りにお誘い頂いて入所者と参加したりと、この状況の中で可能な範囲は出来ているかと思えます。	市が主催する清掃活動に職員が参加し、昔ながらの行事「鬼火焼」には数名の入居者とともに出かけている。管理者がこの数年は地域との交流が殆どできなかったと振り返っており、長い間相互交流を続けてきた地域の支援学校との交流再開が待たれるところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症がなかなか終息見せない中で、まずは職員・利用者の感染防止を最優先に勤めている為、なかなか貢献できない状況が継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、2ヶ月に一回開催の会議をほぼ「書面会議にて開催」した状況ではあったが、今年度は通常開催出来ておりご指摘やご意見を活かすべく取組中。	本年度はこれまでの書面審議から対面での直接開催に移行する事が出来ている。会場を隣接する漁村センターとして包括センター職員や地域の代表者、家族や入居者が構成員となっている。行政の様式に添い事故や苦情などの状況報告の後、参加者からの評価、要望などを受けている。事故報告について発生状況や対応策を報告し、身体拘束についてはホーム内研修を実施していることを報告している。	家族には推進会議の存在は伝えているが、今後内容を報告する機会や“くすのきだより”等で参加を呼び掛ける事も必要と思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者の知識不足、勉強不足等もあり、不明瞭な点があると市の各業務担当者へその度にお訊ねさせて頂いている。	管理者はホーム運営について質問ごとや不明な点があれば、直接行政担当者に説明を受けるようにしている。コロナ感染症のクラスター発生については特に職員と共に入居者の状況を心配しつつ、対応に追われており、ホームでの生活のありがたみも痛感している。認定調査時には入居者のありのままを見てもらいながら、普段の生活の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては「不適切と思われるケア」の事例を月に一回開催のミーティングで取り上げて参加者で検討する等の取り組みをしている。	身体拘束については月のミーティングの中で話し合いの機会をもっている。職員が意識して日々のケアにあたるよう、タイムカードの横に対応についての心構えを、浴室には安全性を含む対応について表示し、スピーチロックには十分注意しなければならないとしている。殆どの方がセンサーマットを使用しているが、カンファレンスで必要性を検討し、外していく方向で対応している。	身体拘束適正化と併せて、虐待防止についても委員会の設置及び開催、研修や責任者の設置が求められており、今後運営推進会議などでホームの取組を報告されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で外部研修参加の機会がほぼない中、オンライン研修に参加したり、日々の業務の中で気づいた点は注意する等出来る限り工夫している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は該当する研修に参加する等知識習得に努めているが、なかなか職員に学習してもらう機会が少ない為、研修時の資料配布に留まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直近で「パッド類の価格変更実施」あり、全入所者の家族と連絡をとり、重要事項説明書を作成し、お会いした都度、説明して取り交わす事が出来た。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時やお電話戴いた際には、入所者のご様子をお伝えしたり、ご要望をお聞きする等、出来ているように思います。	家族は気づいたことや要望を話されており、職員間で内容を共有して対応するようにしている。コロナ感染症の5類移行後も直接面会には至っておらず、窓越しでの対面となっており、早期に顔を合わせての面会が出来るような状況になればと考える。入居者の要望は普段の関わりの中で聞き取り支援に反映するようにしている。	ホームの状況をみながら広く意見や要望を聞き、交流の機会として今後家族会やそれに代わる家族が一堂に会して集まる場があればと考える。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事故発生後の見直しで上がってきた事故防止策で、「緩衝マット購入・敷設やセンサー増設」は行った。	職員は月のミーティングでケアや業務改善について自由に意見や提案を出している。事故について運営推進会議で報告し参加者の意見を収集しているが、防止策のセンサーマットなどの増設には今後必要性の有無をカンファレンスで検討していくこととしている。希望休や有休取得には職員の要望が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	傷病明けの職員の勤務時間を当事者負担軽減の為に削減したり、育児休暇から復帰した職員に、復帰前に本人の希望に合わせた勤務時間を実施中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ケアマネージャー資格や介護福祉士資格取得を目指す職員がおり、資格保持の管理者等でアドバイスしたり自らの勉強法を伝えたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はそれなりに、同業施設の管理者と連絡を取りあう等出来ていると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、職員間の交流は困難な状況である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	医療機関や居宅介護支援事業所から提供された資料等による情報、ご本人や家族の意向等から確認した事が、合致するか？特に初期は頻繁な会話で良好関係構築を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や契約時にまずご家族の意向や不安事をお訊ねするようにしている。又適切な連絡をとる事にも心がけているが、充分であるか？不安はあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入所の方がほとんどである為、まずは施設での生活に慣れて戴く事を優先している。その後、その時々で必要な支援を読み取るようにしているが、改善の必要性を感じる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と「向き合う時間を持つこと」を各職員に言ってきた。ある程度の成果は認めるが、もっと良好な関係は築けると思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	携帯電話を使用される利用者がおられて、家族と直接連絡を取り合う事が増えてきたが、それでも面会時の家族との会話を大切にする等は概ね出来ているかと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会は勿論だが、ご自宅の近隣の方や、ご兄妹等のご親戚の面会来所時は対応出来ている。	ホーム活動の一環として資源ごみの回収に参加している。入居者は海見えるリビングで職員と談話したり、認知デイに通ってこれる利用者と行政の広報誌を広げたり、食事を共にしながら馴染みの関係性が出来ている。地域の情報から鬼火焼や菖蒲の花見学に出かけ、馴染みの行事や季節の花に喜ばれている。家族との面会は窓越しで対応しているが、看取り支援時にはこの限りではなくともに安心されるよう居室内で行い、ひと時を過ごしてもらうこととしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席が隣りや近い方同士は交流がほぼ出来ていると思うが、席が離れている方同士の交流にも気を付けてはいる。又聴力が落ちた方もいる為、会話の仲立ちをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用・契約が終了するとなかなか以前のような関係維持が困難ではあるがお手紙を出したり等で、それなりの工夫はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者と会話する等、とにかく向き合う時間を大切にする」事は常に言ってきたが、その中でご本人希望を叶えるのが困難な場合の対応は、不十分な点がある。	入居者の意向はリビングや入浴中などゆっくりした時間に聞き取るようにしている。盆には盆団子、彼岸にはおはぎづくりなど季節の習わしも入居者の意向を聞きながら一緒に行うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握には、特に注意するようにしている。又ご本人の趣味・嗜好も把握するようにしている。(アセスメント活用等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活状態共有や、表情や話し方の観察等から心身状態の把握が出来るので、それらを「申し送り書」に書き出し、職員共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が出て来れば、計画作成に話せるような状況作りに関しては、職員と会話機会を増やすようにしたり、問いかけたりして意見を聞けるように心がけている。	入居前のカンファレンスには当日の出勤職員が参加し、家族や入院先などの情報から、入居者の生活歴や現状を把握している。参加が出来なかった職員には口頭や医療機関からの情報提供書で伝えながら共有するようにしている。ケアマネジャーである管理者は夜勤をすることで入居者の日中の様子だけではなく、夜間帯の状況把握が出来ている。早期にアセスメントを作成して担当者会議前には入居者自身にわかりやすい言葉でホームでの支援内容を説明し、会議当日には職員と共に家族に説明するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに日々の様子を記録する事は日々出来ていると思うが、受診時の記録や夜間帯の記録には、もっと細かく、詳細な記録が必要かと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特にご本人の状態変化に関して、主治医や看護師から情報提供を受けて、その時の状況に合わせた支援実現を目指している。 概ね出来ていると感じます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの情報収集に気を付けている。又地元の職員もおり、そこからの情報を取り込む等も行っていて、楽しみがある生活に少しは役立っているかと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に必要な連絡はご家族にとるようにして、概ね出来ている。又他医療機関の受診が必要になった場合は、極力同行戴くようにしています。	もともと母体医療機関を受診されていた方もおられ現在、全員がかかりつけ医として月2回の訪問診療を支援している。結果はその都度家族等へ報告し、質問を受けている。基本的に専門医受診は家族に依頼しているが、ホームによる対応が多い現状であり、今後歯科については訪問診療も検討されている。入居者の健康管理は看護職員を中心に行われ、必要に応じ速やかに主治医への連絡、相談を行い指示を受けている。また、系列のデイケアに在籍するPTによるアドバイスやリハビリを受ける機会など法人の機能が活かされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は特に医療面での必要情報の申し送り書記載をお願いし、その点は出来ていると感じるが、その閲覧による全職員の共有・実践には不完全な点あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合、定期で「様子伺い」の連絡で現状把握に努めている。又退院許可の連絡時にはADLの状態を伺う等、ある程度は出来ていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連絡を取り合い、又連携しながら極力適時にカンファレンス	入居時に看取り支援へのホームの取組を方針と共に説明している。体調変化などそのような状態になった時点で、改めて医師を交えて家族と話し合いの機会をもち、家族の意向と方向性について確認している。この1年でホームに出来得る看取りで2名の方の最終を支援している。看取り期中は感染症対策をしっかりと施し、居室での面会を支援し家族との時間を持てるよう取り組んでおり、家族からの感謝が伝えられている。	ホームに出来得る最終の支援が行われている。本人や家族の状況、職員の経験などその時々で取組も異なってくることから今後は本人を偲びながら振り返りの機会をもたれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は主治医への至急連絡を義務付けており、ほぼ出来ている。 その後対応も主治医で行う場合が多い。定期訓練を増やす等して実践力習得を目指したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の定期実施は出来ているが、地域住民を交えてとなると、コロナ状況もあり、なかなか実践が困難な状況。 地域との協力体制は整備されている。	今年度は昼・夜を1回ずつ想定し、入居者も参加した避難、通報訓練を実施している。訓練は出火元に応じて裏玄関や隣の漁村センターへ避難している。地域との協力体制については民生委員との話し合いは進んでいるが、感染症の影響から実現には至っていない。BCPについては完成間近である。	地域の消防団とは連携が出来ており、今後は運営推進会で災害対策を議題にする際などに参加を依頼する事も有効と思われる。災害備蓄についてはリストに沿って確保されることを期待したい。またBCP完成後は職員間での共有が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重の為に「言葉使い」に時折不適切な場面があるように感じる。 又パッド交換の際は、居室ドア閉じるよう注意しているが、こちらも少し不完全な点あり。	職員の都合に合わせるのではなく、「入居者のやりた時に やりたい事を出来るよう」な日常の支援に努めている。呼称は同姓者もおられ、家族へ了承を得、下の名前でも対応している。同性介助への希望があれば応じている。コロナ禍中は髪のカットが難しいこともあり、今後は定期的な訪問カットを支援し、入居者が髪の伸びで不快になったりしないようにしていきたいとしている。	居室に入る際はその方の部屋として、引き続きノックの徹底について共有を図られることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向が聞けるように「会話機会を増やす」ようにしている。又自己決定が出来るような「二者択一」の話しかけ等、注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	摂食時間の違いを把握して、時間要す方を同テーブルに集めて気を遣われないようにしている。又体操・レクの参加でもバイタル値確認や本人確認する等している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣時は可能な範囲で夜勤者も同時確認するようにしたり、洗面時の整容も必要時介助する等、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食の方には、献立を説明したり、その時々で旬の物を提供して季節・時節を感じて戴けるようにしている。片付けはトレイに乗せて戴く等行っている。	開設時から職員による献立作成、調理が継続されている。献立は季節感に配慮し、直近のものと重ならないようにしている。行事食も好評で有り、今年のおせちではオードブルを準備している。また、新鮮な地元の刺身の提供は特に喜ばれている。食形態は個々の嚥下力に応じて準備し、キザミやミキサー食の方には献立名を伝えている。つわの皮むきやぼた餅、おはぎ作りなど入居者の出番が用意され、腕を振われている。職員1名が検食簿への記入を行っている。	今後は検食簿への記録者名の記入や入居者の代弁者として味や量、調理方法など感想や気づきを活かせるようなコメントが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回の体重測定の数値で、気にかかる方がいれば看護師相談し、主治医指示を仰ぐようにしている。水分摂取も好みに合った温度で提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ほぼ毎回実施出来ている。利用者によっては職員介助で実施中。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを考慮して職員から声掛けを行う等工夫している 利用者もいる。又個人毎のADLに合わせた方法はとれている。	把握した排泄パターンを活用し、声掛けや誘導が行われている。排泄用品は介護度など個々の状況に応じて使用し、パットの使い分けも検討されている。日中は介護度に関わらずトイレでの排泄を基本としている。居室にはトイレが備わっているが、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた献立を毎回考慮し、食事を提供している。又嚥下状態や便秘予防等から、お粥、ミキサー食等、形態も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	誘導の声をかけて拒否があれば声掛けの職員を交代したり、時間をずらしたりしている。又朝の整容時で出来なかった方の髭剃りを入浴時に行ったりしている。	基本的に週2～3回の入浴を午前中に支援し、汚染時は不快の無いようその都度対応している。ホームの浴槽は一般浴であり、介護度3以上になられた方には、安全面からかけ湯をしながらシャワー浴で支援されている。また、全入居者に上がり湯(仕上げ湯)を施し、満足感を味わってもらっている。季節湯として菖蒲や柚子は個々の皮膚の状態などに応じて取り入れている。乾燥気味な入居者も多く入浴後は保湿剤の使用や、水分補給としてお茶(温・冷)やスポーツ飲料などを準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルに合わせて居室での静養時間確保している。又人によっては、畳上での休息を希望される方もいる為、そこでも実施中。冬場乾燥防止で居室内濡れタオル干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を綴っており、変更時等職員間で共有可能な状況を整えている。服薬はその都度手渡しで服薬完了迄確認し、症状変化は看護師に伝えて主治医へ報告する事としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後の洗濯物たたみは定着化しており、チラシでのごみ箱づくりも楽しんで載っている。又テレビ番組も好みの「時代劇や歌番組」を視聴頂いている。又音楽好きの方用に脱衣での音楽鑑賞も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で、現在はマスク使用の施設付近の散歩や、ドライブ等も車内からの見学に留まっている。 面会も窓越しでの実施である。	コロナ5類移行後も対策を施しながらの外出支援が継続されている。しかしホームの環境は海辺の閑静な立地にあり、馴染みの海を見ながら散歩や、ベランダで日光浴をしながらお茶をするなどできることで日常的に支援している。また、職員からの情報で地域の元庄屋宅の菖蒲園見学、道の駅物産館に出かける等、地域資源を活用した外出が行われている。個別支援の一つとしてドライブに出た際、依然の勤務先を通った際は、大変喜ばれたようである。	感染症の状況を見ながら今後も身近な散歩や、季節の花見など入居者の要望を聞きながら支援されることを期待したい。また、家族も参加可能な外出先があれば、協力を呼びかける事で双方の楽しみに繋がるものと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にご家族や本人の承諾を得て、担当職員が預かり管理している。小物や消耗品に関しては、本人希望時や必要時にそこからの購入可能な状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、本人希望時に対応中。又ご家族からの連絡時は極力取り次いでいる。更に施設からの連絡時に希望あれば話して載っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁やテーブルに利用者の作品を飾ったり壁面飾りも季節毎に変更している。 又カーテンや冷・暖房の活用等で快適に過ごして戴くようにしている。	入居者が日中の殆どを過ごすリビングホールは明るく、海を臨んだり潮風を間近に感じる事が出来る。壁面に飾られた季節の作品作りは職員が中心になっているが、入居者もできる作業で一緒に取り組んでいる。テーブルの配置は入居者の状態に応じて決定しており、座る席は相性なども考慮している。段上がりの畳スペースは入居者が洗濯物をたたんだり、デイ利用者や居室に戻ったの休息が億劫になられた方がひと休みされる場所に活用されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の変更時に共用スペースの席替えを行う等、気の合う方同士の相席に気配りしている。又小テーブルの導入で一人や二人で過ごせるようにもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には面会時の写真や、各々のご家庭での出来事の際の写真飾るようにしている。又小時間の休息用にお使いのソファや暖房器具も装備。	入居の際、準備品リストをもとに説明を行っている。使い慣れた帽子や湯飲みなどの日用品の他、音響品、テレビを持ち込み好きな時代劇を楽しまれる方もおられる。それぞれの居室には家族との思い出の写真が飾られたり、趣味の一つとして葉袋で造られた方の鶴の置物が他の居室やホール、玄関などに置かれ、本人にとっても自信や励みに繋がっている。衣替えをはじめ居室内の確認は現在も、職員が中心に行っており不足などがあればその都度家族へ伝えている。	現在も居室内の掃除をはじめ衣替えは職員が行っており、今後もベッド周りなど細かな点も確認し、実施後は家族へ伝えていくことで安心につながると思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念にあるように可能な限り、「我が家」に近い環境作りを考えて、使い慣れた品を持ち込めるようにしている。又それが安全にも繋がっていると思う。		